
白

スケープゴート

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白

【Nコード】

N7411L

【作者名】

スケープゴート

【あらすじ】

白い女と惚れた男の短編

(前書き)

色シリーズです。

まさしく白の女。

彼女はそういう人でした。

細く、華奢な身体。

白い肌によく映える黒髪。

黒真珠のように輝く瞳も美しければ、鼻梁も高く唇は桜色。

私はそんな美しい人に惚れたのです。

彼女は声楽を学んでいました。

彼女の声は他の娘たちの声の中でもひととき美しくありました。どんな大勢の娘たちの声の束の中でも、彼女の声だけは高らかでのびやかで澄んでいる。

それこそ天使の声のようだった。

そう、天使。

彼女の好む白い服は天使の纏う衣、背中の翼。

彼女は美しいその歌声を楽園にまで届けることのできる天使でした。

そんな彼女に、私はいつも白い薔薇を携えて迎えに行きます。

ああ、美しい私の天使。その声は私の心を癒す。そのあなたが纏う

白い服はあなたの翼なのだろう。

薔薇を差し出してそう声をかける。

彼女は困った顔で笑いながらも受け取ってくれる。

目を少しだけ伏せた時に頬に落ちるまつ毛の影。

ほんの少しだけ桜色に染まる頬。

手を伸ばして、薔薇を受け取ってくれたときに手に触れたかわいらしい爪。

そのすべてが、彼女のすべてが愛らしく美しい。

周りの彼女の仲間の娘たちは、うるさく彼女を冷やかして私を馬鹿にするが、そんなこと気にもならない。

私のすべては彼女だけだ。彼女以外の者の言葉なんて、私の心に爪

をたてることすらできない。

彼女は天使。

白のよく似合う美しいあなた。

歌声はどこまでも高らかと澄んで、空の上まで舞い上がる。

そんな彼女を見守るために、私はまた、白い薔薇を彼女に捧げる。

もう、何輪の薔薇を捧げたのだろう。

今日の彼女の歌声は少しばかり濁っていた。周りの娘たちの声を纏って高らかに伸びる彼女の声が、いつもの輝きも美しさも失って地を彷徨っていた。

どうしたというのだろう。

いつものように、彼女に薔薇を捧げた。

けれども、いつものように彼女に声をかけることができない。

嘘の言葉を彼女に捧げることなどできるはずがない。

彼女は細い眉を下げて、私の手から薔薇を受け取った。

ありがとう

そして、彼女は私に声をかけた。

伏せられた瞳。いつもより長いまつげの影。いつもより白い彼女の肌。

彼女の身に付けた純白だった服に、少しだけ汚れが見えた。

翌日、彼女は死んだ。

歌を捧げていたいつもの教会で。

彼女はナイフを自らの胸につきたてて死んでいた。

祈りの形で組まれた彼女の手。血で汚された彼女の白い服。

どの娘たちよりも早くに来る私だから、彼女を一番に見つけたのも私だった。

彼女の肌は、白く白く透けるように白かった。

彼女の組まれた手のひらに握られた白い便箋。

私は彼女の傍らに膝をついてその便箋を読んだ。

私は愚かな人間でした。

白い薔薇を携えて訪れてくれる愛しい人に私の秘密を打ち明けることもできなかつた臆病な人間です。

私は彼のいうような白い天使ではありません。

私は産まれた時より混ざりもの。

男でもなく、女でもない身体を持って生まれた半端もの。

彼はそれを知つてなお私の事を愛してくださいさるでしょうか。いいえ。

彼は私に失望するでしょう。

だから、薔薇を私にくださるときに一声かけることすらできなかつた。

ただ、彼が喜んでくださる私の声を届けるだけ。

けれどそれももうできません。

咽のどを灼やくこの痛み。

私は病に侵されました。

私はいずれこの声を失つてしまふ。

彼のために歌うことも許されないとこのならば。

ああ、神よ。

臆病な私をお許してください。

お許しくださるのならば、私はあなた様のために歌を歌いましょう。彼への心は私が天の国へと抱いていきます。

願わくば、私の歌声が彼の元へ届きますよう。

ああ、美しい彼女。美しいあなた。白のよく似合う天使のように汚れないあなた。

あなたは私の事を愛してくれていたのですね。

それだけで十分。それだけで私の思いは、心は満たされるといふのに。

あなたの秘密は知っていた。

生まれながらの半端ものだと知っていました。

それでも、私は天使のようなあなたに心奪われたのです。

ああ、死んでもなお白く美しい人。

あなたが私への心を持って天の国へと旅立ったのなら、私はその
思いを追って、あなたを追って天の国へとまいりましょう。

あなたの歌声を一番近くで聴けるように、私も天の国へ行きましょ
う。

彼女の亡骸からナイフを抜く。

もう、彼女を汚す赤い血は流れない。彼女の体は冷たいがまだ柔ら
かい。

白い薔薇は傍らに。

私は彼女の亡骸を抱いて。

ナイフを高々と掲げた。

ああ、我らが神よ。哀れに引き裂かれた私たちに祝福を！

ナイフの刃が光って、私の胸に突き立った。

美しい人。白がよく似合う美しい人。

この世では共になれなかったが、せめて涅槃ねはんの奥底で共になろう。

薔薇の花は持つてはいけないけれど、なに。あなたの天使にも劣ら
ない歌声があれば私たちは幸せになれるだろう。

ほほ笑んでいてとは言わない。

あなたは私の隣で歌っていて。

白がよく似合う汚れない美しい人。

(後書き)

書いてて恥ずかしかった。

が、後悔はしていない！

恥ずかしかったけど楽しかった！！

読んでくださってありがとうございます。

欲をいますが、できれば色シリーズを読んでもらえれば感激です！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7411/>

白

2010年10月9日02時33分発行